

////////////////////
いわて マナビィ マガジン

No.144 2017. 9.22
////////////////////////////////////

暑さ寒さも彼岸までと申しますが、朝夕だいぶ涼しくなってきました。
皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、今回は、9月4日（月）に実施しました当センター主催事業である
「子育て支援活動交流研修会」についてお伝えします。

センター情報

本研修会は、「貧困」をテーマに講義、事例発表を行いました。

演題、講師については以下のとおりです。

<講演>

「子どもの貧困から見えてくるもの」
～「貧困」が子どもや地域に与える影響～
岩手県立大学 准教授 櫻 幸恵 氏

<事例発表>

「地域で支えるみんなの居場所」
～子ども食堂『わらしやん井』の活動を通して～
特定非営利活動法人いなほ 代表理事 佐藤 昌幸 氏

=====
講演では、櫻先生より「子どもの貧困の状況」「岩手県における子どもの貧困」「貧困が子どもに与える影響」「子どもの貧困に関する支援の枠組み」
についてお話がありました。

本号ですべての内容をお伝えすることは難しいので、複数回に分けてお伝えします。

今回は「子どもの貧困の状況」と「岩手県における子どもの貧困」についてです。

はじめに櫻先生から貧困の定義について説明がありました。

貧困には、絶対的貧困と相対的貧困とがあり、前者は、「国・地域の生活レベルとは無関係に、人間が生きるために必要な最低限の衣食住を満たす生活水準以下であること」、後者は、「ある国・地域の平均的な生活レベルよりも著しく低い生活レベルであること」だそうです。

貧困率（相対的貧困率）とは、世帯収入から国民一人ひとりの所得を試算（※）して順番に並べたとき、真ん中の所得（中央値）の半分（貧困線）に届かない人の割合であり、平成 27 年の貧困線は 122 万円だったとのことです。

※等価可処分所得(手取り収入)を世帯人員の平方根で割って調整した所得

そして、子どもの貧困率は、18 歳未満で貧困線に届かない人の割合を指すそうです。

<子どもの貧困の状況>

厚生労働省が行った「平成 28 年国生活基礎調査」の結果を見ると、子どもの 7 人に 1 人が貧困の状況にあるそうです。

<岩手県における貧困の状況>

平成 27 年度に櫻先生らが実施した「盛岡市ひとり親世帯の子どもの生活実態調査」の結果は以下のとおりです。

○収入を伴う仕事をしているか？

している 91.6%

○必要があるのに病院の受診をしなかったことはあるか？

受診したほうが良かったのに受診しなかった 23.2%

その理由

※時間がなかった 69.9%

※支払い困難だった 33.8%

○過去 1 年間にお金がなくて食料を購入できないことはあったか？

買えなかったことがある 47.4%

○子どもの放課後の過ごし方は？

ひとりで過ごす 32.4%

○子ども部屋を持っているか？

持っていない 14.3%

学習コーナーのみ 36.2%

○塾や習い事をさせていたか？

していない 63.0%

その理由

※経済的理由によるもの 66.0%

○無料の学習支援があれば利用させたいか？

利用させたい 81.2%

○自分が病気や不在のとき子どもの面倒を見てくれる人はいるか？

いない 15.0%

厚労省の調査結果から考えると、35人の児童がいる学級では、5人の貧困家庭があるという計算になることに驚きました。

岩手県でも、貧困に悩む、困っている家庭は少なからずあることをお聞きし、私自身が小学生を持つ親として、とても心が痛みました。

貧困により、周りの友だちと同じような環境で生活ができない子ども達が存在していることを忘れてはいけないと痛切に感じました。

=====
事例発表では、佐藤氏が代表理事を務める特定非営利活動法人いなほの設立経緯、目的、活動内容についての説明後、活動内容のひとつである「子ども食堂」についての発表がありました。

<子ども食堂「わらしゃん丼」とは>

○盛岡市と滝沢市において、それぞれの地域の方々と共同で実施

○子どもの貧困対策にフォーカスした活動ではなく、地域の方々が地域のことを思い全員ボランティアで取り組んでいる活動

<きっかけ>

○「みんなで考える地域福祉実践講座」（盛岡市主催）で中心になっているメンバー（主婦、会社員、学生など）が出会い、小学校を借りて子どもや保護者を巻き込んで交流を図る社会実験を実施する。

○味をしめた受講生間で「講座終了後も活動したいね」と盛り上がる。

○講座の受講生だった男性の話「近所に遅くまでお母さんの帰宅をごはんを食わずに待ってる子どもがいるんだよな・・・」の言葉により、地域の方々が反応し、できることを考え始める。

○「こども食堂はどうだろう・・・いいね!!! やってみよう!!!」ということになり、実施することとなる。

○実施することになったものの、場所がない、ノウハウがない、お金がないということで、受講者のメンバーが動き、場所は福祉施設に、ノウハウを調べ、お金は協力者を探し、実施することとなる。

<概要>

事務局：全員が地域のボランティア

開催日時：概ね毎月第四土曜日 13時～19時

内容：勉強、遊び、食事

対象：こどもから大人まで 誰でもOK

料金：無料（可能な方には募金をお願い）

会場：地域の福祉施設

予算：助成団体からの補助を活用

1回あたり50食1万円で食事を提供

<成果>

- 課題を抱える方との接点ができた。
- 普段から挨拶できる様な関係性が築けた。
- ボランティアのやりがいにつながった。
- 自分の地域について考えるきっかけになった。

子ども食堂の取組は、地域の子どものみならず、様々な世代の方々と
の交流を生み出し、地域の活性化にもつながっています。この活動に、自
主的に、そして、楽しみながら取り組まれている方々の意欲と情熱に敬意
を表します。

このようなアイデアや工夫を参考にしながら、地域の実情に合わせた子
どもたちの支援や地域活性化のための取り組みにつなげていければと思っ
ております。



このメールマガジンは、県内小・中学校、義務教育学校、社会教育関
係者及び生涯学習・社会教育に関心を持たれている登録者の皆様に
無料で配信しています。ご意見・ご感想、登録・登録解除は下記ア
ドレスにご連絡ください。⇒ E-mail ; takashi-kuji@pref.iwate.jp

メルマガのバックナンバーをセンターHP「まなびネットいわて」

で閲覧できます。⇒ <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

左下の「発行物・刊行物」>「いわてマナビィマガジン」をクリック



発行：岩手県立生涯学習推進センター（花巻市北湯口 2-82-13）

編集：久 慈 孝